

第4学年 音楽科学習指導案

- 1 題材 音の重なりを感じながら 歌ったり、きいたり、合奏したりしよう
 教材曲 「パレード ホッポー」 高木あきこ 作詞／平吉毅州 作曲
 「きゅう友」 タイケ 作曲
 「茶色の小びん」 ヨセフウィナー 作曲／芙龍明子作詞 浦田健次郎編曲

2 学習指導の考え方

このような子どもたちだから

本学年の子どもたちは、音楽活動に意欲的に取り組んでいる。これまでの学習では、旋律の特徴や曲想を感じ取りながら想像豊かに聴いたり、曲想にふさわしい歌い方や演奏の仕方を考えながら表現を工夫したりしてきた。その活動を通して、曲想を感じ取りながら聴いたり、曲想に合う歌い方や演奏の仕方を工夫したりしようという意欲は見られるようになってきた。また、響きに気を付けながら歌い方の工夫をすることができるようになってきた。しかし、旋律の重なりや、声や楽器の音が重なり合う響きを感じ取って聴いたり、互いの音を聴きながら演奏の仕方を工夫して豊かに表現する活動は十分ではない。

このような教材で

- 歌唱曲「パレード ホッポー」は、パレードを題材にした軽快な楽曲である。前半のリズミカルな旋律と、後半の流れるような旋律の感じの違いに気付いて歌ったり、旋律の重なる楽しさを感じ取って歌ったりするとともに、旋律を重ねて歌うことによって、合唱の響きを味わうことができる。
- 鑑賞曲「きゅう友」は、吹奏楽による行進曲である。前奏の後に続く歯切れのよい躍動的な主旋律と、中音域の楽器で表されるやわらかく流れるような対旋律が重なって響き合う美しさを味わうとともに、吹奏楽による管楽器や打楽器の響きを味わうことができる。
- 合奏教材曲「茶色の小びん」は、主旋律のパート(①パート)、主旋律を飾る副次的な旋律(②パート)、主旋律に響きを与える和音(③パート)、旋律を支える低音のパート(④パート)を加えた編成になっている。このため各パートの旋律の重なり合う響きを感じ取り、音色を考えながら各パートにふさわしい楽器を選んでいく活動を行うことができる。また、合奏全体をより豊かにするために、これまでの学習を生かして、音色を考えながらリズム伴奏を工夫していく活動を展開することができる。

これらのことから、鑑賞活動や歌唱活動を基盤に据えて、音楽を特徴付けている要素を感じ取り、器楽活動に生かしながら、豊かに表現していく学習に適していると考ええる。

このような指導・支援を行いながら

- **つかむ段階**
 まず、「パレード ホッポー」を正しく歌えるようにした後、「きゅう友」で、歯切れのよい主旋律と流れるような対旋律の違いに気付かせていく。そのために教科書に示されている楽譜を指でたどりながら聴かせ口ずさませるなどの支援を行う。さらに、「パレード ホッポー」でも声の重なり具合に気付かせていくためにそれぞれの旋律の違いに気付かせて歌わせた後、2つの旋律を重ねて歌う活動を行う。
- **深める段階**
 「茶色の小びん」では、まず、複数の旋律の重なりを感じ取らせるために「パレード ホッポー」での2つの重なり合う旋律について想起させた後「茶色の小びん」の指導用CDを聴かせる。次に、主旋律、副次的な旋律、和音、低音パートを指導していく。その際、主旋律、副次的な旋律が演奏できた子どもから和音、低音パートに取り組み合奏へと進めていきたい。その後、自分たちの表現を高めていくために、グループ活動の中で音色を考えながら楽器を選択したり、リズム伴奏を工夫したりする活動を行うとともに聴き合う活動の場を設定していくようにする。
- **味わう段階**
 最後に、グループごとに工夫した表現を評価カードをもとに聴き合う場を設定することで、感想を発表しあい、それぞれのよさを味わうことができるようにする。

このような目標を設定して学習指導を展開します

- 音の重なりを感じ取って歌ったり、聴いたりするとともに、互いの音の重なりを感じながら演奏の仕方を工夫することができる。

3 学習指導計画（全9時間）

題材	教材曲	つかむ段階	深める段階	味わう段階
		第1次(3)	第2次(5)	第3次(1)
音の重なりを感じながら歌ったり、聴いたり、合奏したりしよう	「パレード ホッポー」	■	■	
	「きゆう友」		■	
	「茶色の小びん」			■

4 (1) 評価と評価計画（題材の展開と題材の評価規準→単位時間ごとの学習計画における評価規準）

	題材の評価規準	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
			楽器の音色や人の声による表現、演奏の仕方に関心をもって、進んで聴いたり表現したりしようとしている。	旋律楽器及び打楽器の演奏、合奏による器楽表現及び楽器の音色のよさを感じ取るとともに、音の組み合わせの特徴などを感じ取り、それらを生かした器楽表現の仕方を工夫している。	範唱や範奏を聴いたり楽譜を見たりして楽器を演奏するとともに、音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏している。
本題材で取り上げる活動と評価のかかわり	歌唱	○		○	
	器楽	○	○	○	
	音楽づくり				
	鑑賞	○	○		○
学習過程	主な学習活動と内容	単位時間ごとの学習における具体的な評価規準			
第1次 つかむ段階 ①	ねらい：歌ったり聴いたりする活動を通して、旋律の重なり合う楽しさを感じ取り、学習の課題をつかむ。				
	○ 「パレード ホッポー」の主旋律を歌う。 ・ 範唱を聴いて歌うこと 活用 ○ 2つの旋律の感じを生かして歌う。 ・ 範唱を聴き、旋律の違いを感じ取って歌うこと 習得	① 歌唱表現を聴いて同じように歌いたいという思いや願いをもち進んで歌唱表現をしようとしている。【歌唱】（演奏の様子の観察、発言、学習プリント）		① 副次的な旋律に気付いたり、旋律と旋律とのかかわり合いによって生まれる響きの広がりや変化をとらえて歌っている。【歌唱】（練習の様子の観察、演奏の聴取）	

②	<p>○ 「きゅう友」を聴いて曲想を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想とその変化を感じ取って聴くこと <p style="text-align: right;">活用</p> <p>○ 吹奏楽の特徴を感じ取りながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと <p style="text-align: right;">習得</p>	<p>② 楽曲全体の曲想や旋律の変化に関心を持ち意識的に聴こうとしている。</p> <p>【鑑賞】 (発言, 学習プリント)</p>			<p>① 重なり合う旋律やいろいろな楽器の音色の美しさを感じ取って聴いている。</p> <p>【鑑賞】 (発言, 学習プリント)</p>
③ 本 時 4 の 2	<p>○ 「きゅう友」を聴いて主旋律と対旋律を聴き取り、それぞれの旋律の特徴と2つの旋律の重なりを感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律のかかわり合いを感じ取って聴くこと <p style="text-align: right;">習得</p> <p>○ 「パレード ホッホー」の2つの旋律を重ねて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの旋律を聴いて声を合わせて歌うこと <p style="text-align: right;">活用</p>		<p>① 副次的な旋律に気付いたり旋律と旋律とのかかわり合いによって生まれる響きの広がりや気分の変化を感じ取ったりしている。【鑑賞】 (発言, 観察)</p>		<p>② 主な旋律を口ずさんだり身近な楽器で演奏したりしながら、楽曲全体の曲想やその変化を感じ取って聴いている。【鑑賞】 (発言, 学習プリント)</p>
第2次 深 め る 段 階 ①	<p>ねらい：音の重なりを感じ取りながら、グループで演奏の仕方を工夫する。</p> <p>○ 「茶色の小びん」の範奏を聴いて、曲想と旋律の重なりを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範奏を聴いて感じ取ったことを言葉で表し、「茶色の小びん」の特徴や演奏のよさに気付くこと <p style="text-align: right;">活用</p> <p>○ 範唱に合わせて、主旋律の流れを感じ取りながら歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱に合わせて歌うこと <p style="text-align: right;">活用</p>	<p>③ 楽器固有の音色や美しい響き、簡単な合奏や小アンサンブルなどに関心を持ち器楽表現に取り組もうとしている。【器楽】 (発言, 学習プリント)</p>			
②	<p>○ 「茶色の小びん」の範奏を聴いて、主旋律と副次的な旋律 (①②パート) をリコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範奏に合わせて演奏すること <p style="text-align: right;">活用</p>			<p>② 身近な楽器の奏法に慣れ、タンギングや吹く息の強さ、角度などに気を付けて演奏している。【器楽】 (練習の様子の観察, 演奏の聴取)</p>	

③	<p>○ 「茶色の小びん」の範奏を聴いて、低音部と和音(③④パート)をオルガンで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範奏に合わせて演奏すること 活用 <p>○ グループに分かれ、担当のパートを決めて演奏する。</p>	④ 自分の演奏や友達の演奏における音を聴こうとするとともに繰り返し演奏しようとしている。 【器楽】 (演奏の様子を観察)		③ リズム, 旋律, 強弱, 速度, 音色などの要素を感じ取って演奏したり, それらの相互のかかわりをとらえて演奏したりしている。 【器楽】 (演奏の聴取)	
④	<p>○ グループに分かれて①から④まで, それぞれのパートに合う音色の楽器を選んで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音色に気を付けて旋律楽器を演奏すること 活用 <p>○ グループごとに演奏を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の重なりを感じ取りながら演奏を聴くこと 活用 		② 楽しい器楽表現を求めて演奏技能の必要性を感じ取りながら各パートの音色や奏法を工夫している。 【器楽】 (演奏の聴取, 演奏の様子を観察, 学習プリント)		
⑤ 本 時 4 の 1	<p>○ 「茶色の小びん」の曲想に合ったリズム伴奏を工夫して演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの楽器の音を聴き合いながら音を合わせて演奏すること 活用 <p>○ グループごとに演奏を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の重なりを感じ取りながら演奏を聴くこと 活用 		③ 拍の流れやフレーズ, 強弱の変化, 音の組み合わせの特徴などを感じ取ってリズム伴奏の音色や奏法を工夫している。 【器楽】 (演奏の聴取, 演奏の様子を観察, 学習プリント)	④ 演奏しながらお互いのパートを聴き合ったリ, 自分のパートが出るタイミングに合わせてリズムを正しく演奏したりする。 【器楽】 (演奏の聴取)	
第3次 味 わ う 段 階 ①	<p>○ 各パートの音の重なりを聴き合いながら演奏をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの楽器の音を聴いて音を合わせて演奏すること 習得・活用 <p>○ グループごとに演奏を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の重なりを感じ取りながら演奏を聴くこと 活用 	⑤ 自分の演奏や友達の演奏における音を聴こうとするとともに友達と協力して意欲的に器楽表現に取り組もうとしている。 【器楽】 (演奏の様子を観察)			
ねらい：グループで工夫した演奏を聴き合いながら、互いのよさを発表し合い、合奏の楽しさを味わう。					

(2) 観点別評価の進め方

【音楽への関心・意欲・態度】

学習活動における具体的評価規準	具体的な評価方法とCと判断される場合の支援
<p>アー① 歌唱表現を聴いて同じように歌いたいという思いや願いをもち進んで歌唱表現をしようとしている。</p> <p style="text-align: right;">[歌唱]</p> <p>(演奏の様子の観察, 発言, 学習プリント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 <p>この評価規準については、グループや全体で、歌唱表現している様子を観察したり表現の工夫に気付いた発言や学習プリントの書き込み等から判断したりする。</p> ● Aと判断するキーワード <ul style="list-style-type: none"> □ 曲想にふさわしい歌い方の工夫などの音楽的な発言 □ グループ活動でのリーダーシップ <p>グループ活動の中で、曲想を生かして歌うために積極的に発言をしたり、2つの旋律の違いに気付いた音楽的な発言が見られたりする子ども、さらに、学習プリントに意欲的な書き込みが見られる子どもをAの対象としていきたい。</p> ● Cと判断される子どもへの支援 <p>一人一人が自分の思いを表現し、お互いに認め合うことができるようなグループを編成し、教師がよさを広げるような助言をする。</p>
<p>アー② 楽曲全体の曲想や旋律の変化に関心をもち意識的に聴こうとしている。</p> <p style="text-align: right;">[鑑賞]</p> <p>(発言, 学習プリント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 <p>この評価規準については、「きゅう友」を聴いている様子を観察したり表現の工夫に気付いた発言時の様子や発言の内容、学習プリントの記述等から判断したりする。</p> ● Aと判断するキーワード <ul style="list-style-type: none"> □ 集中した聴き方 □ 拍の流れを身体反応しながら聴く姿 □ 曲想, 旋律の変化をとらえた音楽的な発言 □ 学習プリントの記述 <p>曲想だけでなく2つの旋律の違いに気付いた音楽的な発言が見られたりする子ども、さらに、学習プリントに意欲的な書き込みが見られる子どもをAの対象としていきたい。</p> ● Cと判断される子どもへの支援 <p>身体反応しながら自分なりの音楽の感じ方, 聴き方をしている子どもの様子を見せ, よさを伝えたり, 「音楽の言葉」カードを提示して, 自分の感じたことを選択させたりして, 言葉で表すよう支援していく。</p>
<p>アー③ 楽器固有の音色や美しい響き, 簡単な合奏や小アンサンブルなどに関心をもち器楽表現に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">[器楽]</p> <p>(発言, 学習プリント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 <p>この評価規準については、範奏を聴いて感じ取った特徴や表現の工夫に気付いた発言, 学習プリントの書き込み等から判断していく。</p> ● Aと判断するキーワード <ul style="list-style-type: none"> □ 楽器固有の音色や旋律の重なりについての音楽的な発言 □ 積極的な行動 □ 音楽的なアイデアの提案 (書き込み) <p>範奏で聴き取った楽器固有の音色や美しい響き, 各パートの旋律の重なりについて, これから器楽表現へ生かしていこうとする積極的な発言をする子どもをAの対象としていきたい。</p> ● Cと判断される子どもへの支援 <p>グループ活動の中で, 本人が自分の思いを表現出来る場を意図的に設定する。また, 本人と対話する中で, 何気なく気付いた工夫を教師が見つけて全体に広げていくなどして意欲を喚起していく。</p>

<p>ア一④</p>	<p>自分の演奏や友達の演奏における音を聴こうとするとともに繰り返し演奏しようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【器楽】 (演奏の様子の観察)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、練習の様子を観察し、楽器を構える姿勢、表情、言動、楽器の扱い方などから、子どもたちの意欲や向上心をとらえていく。</p> <p>● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> こだわりをもった練習 <input type="checkbox"/> 集中した練習 <input type="checkbox"/> 自分なりの工夫 練習する際に、自分なりのこだわりや課題をもって部分的に集中して練習している子どもや教師のアドバイスした通りの練習に加えて、自分なりの工夫を加えて繰り返し楽器の演奏をしようとする姿もAの対象としたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 易しい目標を設定しながら少しずつ達成できるようにし、称賛し、励まして意欲を喚起する。また、個別に指導をする。</p>
<p>ア一⑤</p>	<p>自分の演奏や友達の演奏における音を聴こうとするとともに友達と協力して意欲的に器楽表現に取り組もうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【器楽】 (演奏の様子の観察)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、発表時の子どもたちの活動を観察し、楽器を構える姿勢、表情、言動などに見られる意欲や向上心をとらえていく。</p> <p>● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 自分なりの工夫 <input type="checkbox"/> 学習プリントの記述 <input type="checkbox"/> 表現のよさや課題に気付いた音楽的な意見 <input type="checkbox"/> 体を使った演奏 グループ活動の中で、音の重なりを感じながら合奏するために自分なりの工夫を加えて積極的に発言したり、全体の中で、表現のよさや課題に気付いて音楽的な発言が見られたりする子ども、さらに学習プリントに意欲的な書き込みが見られる子どもをAの対象としていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 グループ活動の中で、本人が自分の思いを表現できる場を意図的に設定する。また、グループの人間関係の調整と本人の演奏面での指導を繰り返しながら称賛するとともに一人一人のよいところを認めるようなグループの雰囲気が醸成されていくように導く。</p>

【音楽的な感受や表現の工夫】

学習活動における具体的評価規準	具体的な評価方法とCと判断される場合の支援
<p>イー①</p> <p>副次的な旋律に気付いたり旋律と旋律とのかかわり合いによって生まれる響きの広がりや気分の変化を感じ取ったりしている。</p> <p style="text-align: right;">【鑑賞】 (発言、観察)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、鑑賞をしているときに子どもたちに旋律と旋律とのかかわり合いや気分の変化に関する投げかけをし、発言の内容を観察する。また、学習カードへの書き込み状況からも判断する。また、鑑賞しているときの子どもたちの表情や反応なども加味しながら判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 旋律と旋律とのかかわり合いによる効果に気付いた発言 <input type="checkbox"/> 曲想の気分の変化についての気付き 旋律と旋律とのかかわり合いによって生まれる響きの広がりや気分の変化に積極的に発言したり、曲想の変化に気付きさらに根拠をもって発言したりしている子どもをAの対象としていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 旋律と旋律とのかかわり合いに気付き、自分なりの音楽の感じ方、聴き方をしている子どもの様子を見せ、よさを伝えたり、「音楽の言葉」カード</p>

		を提示して、自分の感じたことを選択させ、言葉で表すよう支援していく。
イー②	<p>楽しい器楽表現を求めて演奏技能の必要性を感じ取りながら各パートの音色や奏法を工夫している。</p> <p style="text-align: right;">【器楽】</p> <p>(演奏の聴取, 演奏の様子の観察, 学習プリント)</p>	<p>● 評価方法</p> <p>この評価規準については、グループで練習に取り組んでいる様子を観察したり、子どもたちと会話したり演奏を聴いたりする中から判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード</p> <p><input type="checkbox"/> 効果的な楽器の選択 <input type="checkbox"/> 音楽的なアイデアの提案</p> <p><input type="checkbox"/> メンバーの意見の調整</p> <p>各パートの旋律の特徴を生かし、音の重なりを考えながら楽器を選択しようとしている様子や音色、奏法を積極的に提案し、グループのリーダーシップを取っている子どもをAの対称としていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援</p> <p>グループ活動の中で、本人が自分の思いを表現できる場を意図的に設定する。また、本人と対話する中で、何気なく気付いた工夫を教師が見つけてグループのメンバーに広げていくなどして意欲を喚起していく。</p>
イー③	<p>拍の流れやフレーズ、強弱の変化、音の組み合わせの特徴などを感じ取って、リズム伴奏の音色や奏法を工夫している。</p> <p style="text-align: right;">【器楽】</p> <p>(演奏の聴取, 演奏の様子の観察, 学習プリント)</p>	<p>● 評価方法</p> <p>この評価規準については、グループで練習に取り組んでいる様子を観察したり、子どもたちと会話したり演奏を聴いたりする中から判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード</p> <p><input type="checkbox"/> 効果的な楽器の選択 <input type="checkbox"/> 音楽的なアイデアの提案</p> <p><input type="checkbox"/> メンバーの意見の調整 <input type="checkbox"/> 積極的な行動</p> <p>各パートの旋律を生かした音の重なりを考えながら打楽器を選択しようとしている様子と奏法を積極的に提案し、効果的なリズムを積極的に提案している様子、さらに、グループのリーダーシップを取っている子どもをAの対象としていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援</p> <p>グループ活動の中で、本人が自分の思いを表現出来る場を意図的に設定する。また、本人と対話する中で、何気なく気付いた工夫を教師が見つけてグループのメンバーに広げていくなどして意欲を喚起していく。</p>

【表現の技能】

学習活動における具体的評価規準	具体的な評価方法とCと判断される場合の支援
<p>ウー①</p> <p>副次的な旋律に気付いたり、旋律と旋律とのかかわり合いによって生まれる響きの広がりや変化をとらえたりして歌っている。</p> <p>【歌唱】 (練習の様子の観察, 演奏の聴取)</p>	<p>● 評価方法</p> <p>この評価規準については、教師の範唱の後、グループで歌唱表現をさせて、歌っているときに子どもたちの中をまわりながら、一人一人の歌唱表現を聴き取り、技能的な状態を観察していく。また、練習の際も子どもたちの様子をじっくりと観察していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード</p> <p><input type="checkbox"/> 拍の流れを大切に正しい音程で歌唱表現</p> <p><input type="checkbox"/> フレーズを意識して正しい発音で歌唱表現</p> <p><input type="checkbox"/> 美しい表現の追究</p> <p>正しい音程で、拍の流れにのって表現し、フレーズを意識しながら歌っている状態の子ども、さらに美しい表現をめざしている発言をしている子どもをAの対象としていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援</p> <p>正しい音程がとれるように、教師と一緒に歌ったり、正しい音程がとれている友達の表現を聴かせて一緒に歌わせたりする。また、フレーズを意識して歌っている表現とそうでない表現を聴き比べさせながら、正しい歌い方を実感させていくなどの練習方法を工夫する。</p>

<p>ウー②</p>	<p>身近な楽器の奏法に慣れタンギングや吹く息の強さ、角度などに気を付けて演奏している。 [器楽] (練習の様子の観察, 演奏の聴取)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、教師が数小節演奏し、それに続いて子どもたちが演奏するという方法で少しずつ演奏できるようにしていく際に、一人一人の技能的な状態を観察していく。また、個人やグループでの練習の際にも状態を観察して判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 乱れない音色 <input type="checkbox"/> きれいなタンギング <input type="checkbox"/> 安定した演奏 リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏する際、きれいなタンギングで演奏できたり、旋律に合わせて、レガート奏、マルカート奏ができたりする子どもをAの対象としていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 個人指導をする時間を設定し、ブレスコントロールやタンギングのアドバイスをするのとともに見本を示すようにする。グループの練習では、Aの子とペアを組ませるなど練習方法を工夫する。</p>
<p>ウー③</p>	<p>リズム、旋律、強弱、速度、音色などの要素を感じ取って演奏したり、それらの相互のかかわりをとらえて演奏したりしている。[器楽] (演奏の聴取)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、グループで練習に取り組んでいる様子を観察したり、子どもたちと会話したり演奏を聴いたりする中から判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 何度やっても正確 <input type="checkbox"/> 表情や体全体を使った演奏 この評価規準については、各パートの旋律を生かした音の重なりを考えながら、正しい音、リズムで演奏している様子、強弱、速度、音色のどの要素を感じ取りながら演奏しているかという様子、さらに、表情や体全体を使って工夫している子どもをAの対象としていきたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 個人指導をする時間を設定し、拍の流れにのれるように拍を打ったり、グループの練習では、Aの子どもとペアを組ませたりするなど、練習方法を工夫する。</p>
<p>ウー④</p>	<p>演奏しながらお互いのパートを聴き合ったり、自分のパートが出るタイミングに合わせてリズムを正しく演奏したりする。 [器楽] (演奏の聴取)</p>	<p>● 評価方法 この評価規準については、グループで練習に取り組んでいる様子を観察したり、子どもたちと会話したり演奏を聴いたりする中から判断していく。</p> <p>● Aと判断するキーワード <input type="checkbox"/> 適切な楽器やリズムの選択 <input type="checkbox"/> 表情や体全体を使った演奏 <input type="checkbox"/> 美しい音色や適当な音量 この評価規準については、各パートの旋律を生かした音の重なりを考えながら打楽器を選択し、効果的なリズムを正しく演奏している様子、さらに、表現する際に、表情や体全体を使って工夫している子どもをAの対象としていきたい。また、美しい音色や適当な音量を保ちながら表現している姿もAとしたい。</p> <p>● Cと判断される子どもへの支援 個人指導をする時間を設定し、リズム打ちが正確にできるよう拍を打ったり、グループの練習では、Aの子どもとペアを組ませたりするなど練習方法を工夫する。</p>

【鑑賞の能力】

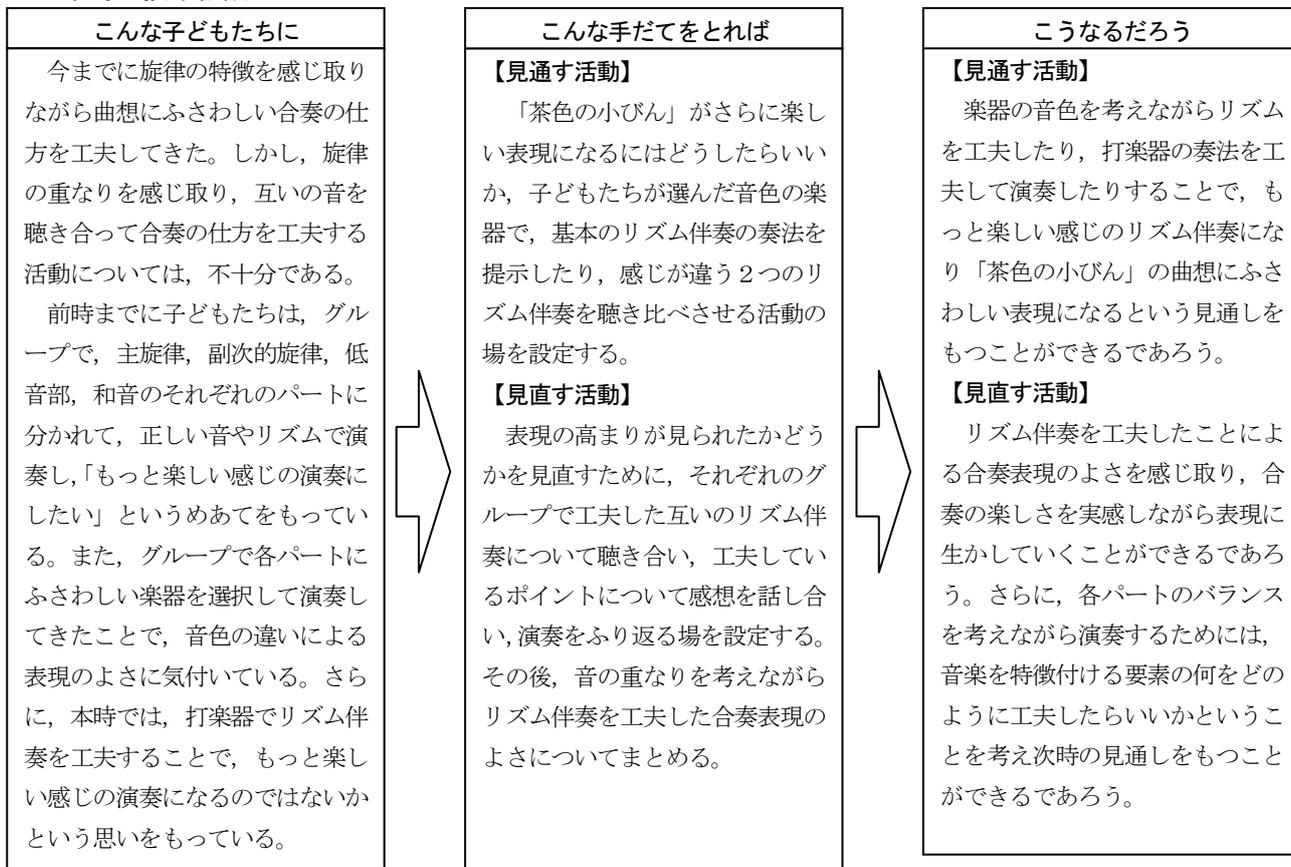
学習活動における具体的評価規準		具体的な評価方法とCと判断される場合の支援
エー①	重なり合う旋律やいろいろな楽器の音色の美しさを感じ取って聴いている。【鑑賞】（発言，学習プリント）	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 <p>この評価規準については、鑑賞後に子どもたちに曲想やいろいろな種類の楽器の聴き取りについての投げかけをし、発表の内容を観察する。また、学習カードへの書き込み状況からも判断する。また、鑑賞しているときの子どもたちの表情や態度、教師との会話なども加味しながら判断していく。</p> ● Aと判断するキーワード <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 曲想についての積極的な発言 <input type="checkbox"/> いろいろな種類の楽器についての気付き <p>曲全体の曲想はもちろんのこと、行進曲について積極的に発言したり、いろいろな種類の楽器についての気付きについての積極的な発言をしたりしている子どもをAの対象としていきたい。</p> ● Cと判断される子どもへの支援 <p>「音楽の言葉」カードを提示し、教師が本人のよさを広げるような助言をする。また、学習プリントに何も記入していない子どもについては、教師が直接会話をし、その受け答えの中から本人の気付いていることを明確にする。</p>
エー②	主な旋律を口ずさんだり身近な楽器で演奏したりしながら、楽曲全体の曲想やその変化を感じ取って聴いている。【鑑賞】（発言，学習プリント）	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 <p>この評価規準については、鑑賞後に2つの旋律についての投げかけをし、発表の内容を観察する。また、学習プリントへの書き込みの状況からも判断する。また、鑑賞中の顔の表情、態度、教師との会話なども加味しながら判断していく。</p> ● Aと判断するキーワード <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 旋律の重なりについての気付き <input type="checkbox"/> 曲想についての積極的な発言 <p>鑑賞後に、子どもたちに曲想や旋律の特徴についての投げかけをし、2つの重なり合う旋律の特徴をそれぞれ積極的に発言する様子と内容からAの対象を判断していきたい。</p> ● Cと判断される子どもへの支援 <p>一人一人が自分の思いを表現し、お互いに認め合うことができるようなグループを編成し、教師がよさを広げるような助言をする。また、学習プリントに何も記入していない子どもについては、教師が直接会話をし、その受け答えの中から本人の気付いていることを明確にする。</p>

5 本時 (8/9 深める段階) 公開授業② 4年 組 音楽室にて 指導者

6 本時の目標

- 音の重なりを聴き合いながら、打楽器でリズム伴奏を工夫し合奏することができる。

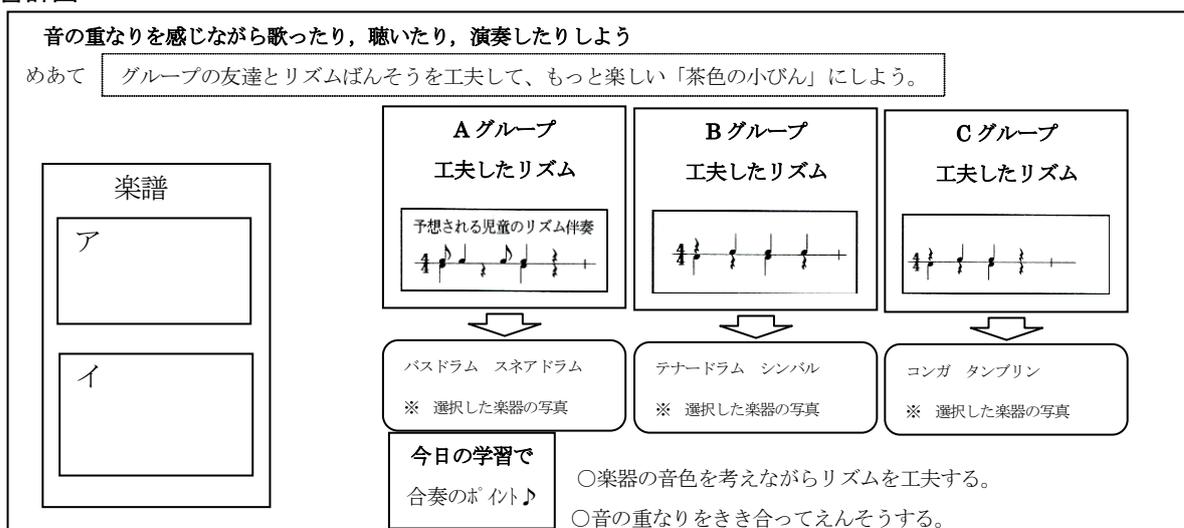
7 本時の授業仮説



8 準備

- 教師…ボンゴ、コンガ、大太鼓、小太鼓、スタンド、シンバル、トライアングル、木琴、鉄琴などの打楽器、電子オルガン、リズム譜
- 子ども…リコーダー、鍵盤ハーモニカ

9 板書計画



10 本時の展開

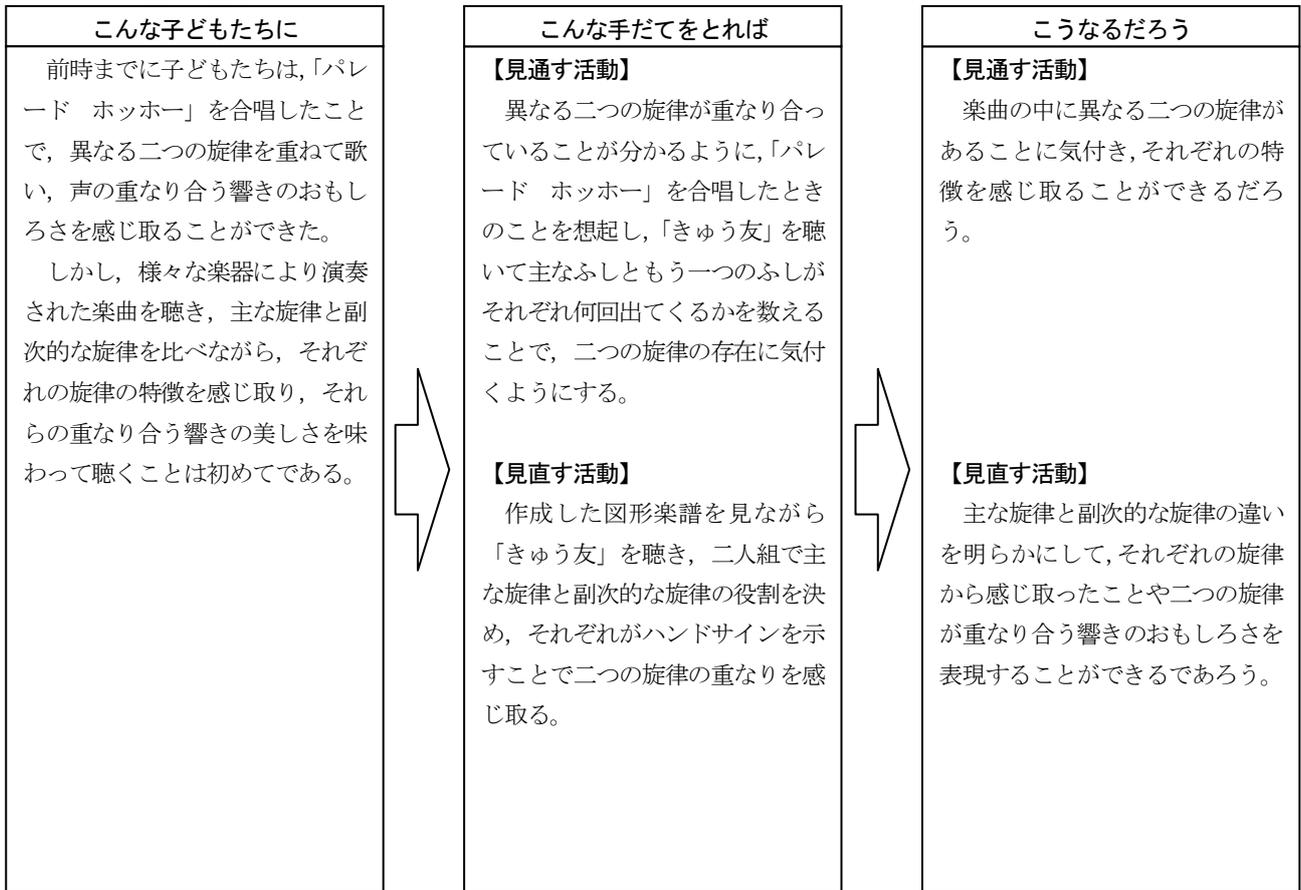
学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)◆評価規準
<p>1 「茶色の小びん」を演奏し、本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて グループの友達とリズムばんそうを工夫して、もっと楽しい「茶色の小びん」にしよう。</div> <p>(2) 見通す活動をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【見通す活動】</p> <p>提示する二つのリズム伴奏を聴いて、もっと楽しい「茶色の小びん」にするために、リズム伴奏を工夫するポイントについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>楽器の音色を考えながらリズムを工夫したり、打楽器の奏法を工夫して演奏したりすれば、もっと楽しい感じのリズム伴奏になるのではないかな。</p> </div> </div>	<p>○ 前時までの学習を想起するために、主旋律、副次的旋律、和音、低音部を前時に選んだ楽器で演奏させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○音色や奏法に気を付けてリズム伴奏を工夫すること ○互いの楽器の音を聴き合いながら演奏すること</div> <p>☆ 基本のリズム伴奏の奏法を感じ取らせるために、2拍めと4拍目を強く打ったリズム伴奏とそうでないリズム伴奏をリズム打ちをさせて確かめる。</p> <p>☆ 音色の特徴を生かしてリズムを変えると表現が変わることに気付かせるために、代表グループが選んだ楽器で、リズムを変えたものを教師が提示し、その感じの違いについて話し合わせる。</p> <p>○ グループ活動の仕方について次のように方法を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で、2つに分かれて、リズムのバッテリー奏しながらリズム伴奏を工夫すること。 ・ 主旋律の楽器と組み合わせて演奏しながらリズム伴奏を工夫すること。 <p>○ 工夫したリズム伴奏の違いがわかるように、教師がリズム譜を作成して提示する。</p> <p>○ 表現のよさを感じ取りながら、さらに工夫することができるように、活動の途中で、モデルグループを提示する。</p> <p>◆ 演奏しながらお互いのパートを聴き合ったり、自分のパートが出るタイミングに合わせてリズムを正しく演奏したりする。</p> <p style="text-align: right;">(ウー④)</p>
<p>2 楽しい感じを表すために、グループでリズム伴奏を工夫する。</p> <p>(1) グループ活動の手順を確認する。</p> <p>(2) グループで選んだ楽器でどんなリズム伴奏にしたらいいか話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【見直す活動】</p> <p>グループで工夫した演奏を聴き合い、リズム伴奏の違いによる表現のよさについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>・各パートの音の重なりをよく聴き合いながら、楽器の音色や奏法を考えてリズム伴奏を工夫することで、より楽しい「茶色の小びん」の演奏になりました。</p> </div> </div>	<p>○ 表現のよさを感じ取ることができるように、聴き合う観点を明確にし、学習プリントに感じ取った工夫を書かせる。</p> <p>☆ 表現の高まりを感じ取ることができるように、聴き比べる観点を明確にして話し合う。</p> <p>(観点)・ 楽器の音色や奏法を考えながらリズム伴奏を工夫しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 音の重なりをきき合いながらリズム伴奏を工夫しているか。
<p>3 本時学習のまとめをする。</p> <p>(1) 代表グループのリズム伴奏を入れて全員で演奏する。</p> <p>(2) 合奏のポイントをまとめ、さらに合奏の課題と感じていることを発表する。</p>	<p>◆ 拍の流れやフレーズ、強弱の変化、音の組み合わせの特徴などを感じ取って、リズム伴奏の音色や奏法を工夫している。</p> <p style="text-align: right;">(イー③)</p> <p>○ 各パートのバランスについても考えながら演奏をよりよいものにしていくことを確かめ、次時の発表会への意欲をもたせる。</p>

5 本時 (3/9 つかむ段階) 公開授業② 4年 組教室にて 指導者

6 本時の目標

- 主な旋律と副次的な旋律の違いに気付き、旋律が重なり合う響きのおもしろさや美しさを感じ取って聴くことができる。

7 本時の授業仮説



8 準備

- 教師…鑑賞CD, オルガン, 色カード (赤, 青), 学習プリント
- 子ども…教科書, 音楽ノート

9 板書計画

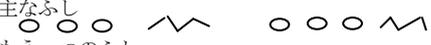
音の重なりを感じながら歌ったり、聴いたり、演奏したりしよう

めあて すいそう楽で演奏された曲のふしの重なりを味わってきこう。

パレードホッポー	<p>きゅう友</p> <p>ふしの重なり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はずんだ感じのふし ・なめらかな感じのふし ・重なった 	吹奏楽団	<p>主なふし</p>  <p>もう一つのふし</p> 
----------	--	------	--

・はずんだ感じのふしとなめらかな感じのふしが重なっている。

10 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援(☆は習得, ★は活用)◆評価規準
<p>1 前時の学習を想起し、本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) めあてを確認する。</p>	<p>○ 「パレード ホッポー」を歌い、二つの旋律を重ねて歌ったことを想起させる。</p> <p>○ 「きゅう友」を聴いたことを想起させ、パレード ホッポーと同じように二つの旋律があることを確認する。</p>
<p>めあて すいそう楽でえんそうされた曲のふしの重なりを味わってきこう。</p>	
<p>(2) 見通す活動をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【見通す活動】</p> <p>「きゅう友」を聴いて、異なる二つのふしを聴き取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ はずんだ感じのふしがあった。 ・ なめらかなふしがあった。 ・ 途中から二つのふしが重なり合った。 </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">異なる二つの旋律の存在に気付くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 「パレード ホッポー」を合唱したときのことを想起させる。 ★ 二つの旋律が聴き取れるように、それぞれの旋律をオルガンで弾いて確認する。 ☆ 二つの旋律をつかむためにそれぞれが何回聴こえたかを数えながら聴かせる。 </div>
<p>2 二つのふしの重なりを感じ取って「きゅう友」を聴き、図形楽譜を作る。</p> <p>(1) 「主なふし」「もう一つのふし」を口ずさみながら聴く。</p> <p>主なふし</p>  <p>もう一つのふし</p>  <p>(2) 二つのふしの重なりを感じ取って聴き、図形楽譜で表し、発表する。</p> <p>予想される児童の図形楽譜</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>主なふし</p>  <p>もう一つのふし</p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 副次的な旋律に気付いたり旋律と旋律とのかかわり合いによって生まれる響きの広がりや気分の変化を感じ取ったりしている。 (イー①) ○ 主なふしの特徴をつかませるために、グループで記号を決めて図形楽譜を作成させる。 ○ もう一つのふしの特徴をつかませるために、グループで記号を決めて図形楽譜を作成させる。 ○ 二つの旋律の重なりに気付かせるために、それぞれ作成した図形楽譜を重ねて、グループ内で二つのふしに分かれて口ずさませる。
<p>(3) 見直す活動をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【見直す活動】</p> <p>作成した図形楽譜を見ながら「きゅう友」を再度聴いて、二つのふしの重なりを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主なふしの4回目でもう一つのふしが重なったことが分かった。 ・ はずんだ感じのふしとなめらかな感じのふしが重なっておもしろい。 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 曲の前半部分を取り出して聴かせ、主な旋律と副次的な旋律が重なっていることを確認させる。 ☆ 二人組で主な旋律と副次的な旋律の役割を決め、それぞれの旋律が聴こえた時にハンドサインをさせることで旋律の重なりをとらえさせる。
<p>3 本時学習のまとめをする。</p> <p>(1) 主な旋律と副次的な旋律が重なり合っているところに気を付けながら「パレード ホッポー」を歌う。</p> <p>(2) 「今日の学習で」を書き、感想を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主な旋律を口ずさんだり身近な楽器で演奏したりしながら、楽曲全体の曲想やその変化を感じ取って聴いている。 (エー②) ○ 「パレード ホッポー」と「きゅう友」が同じようなふしの重なりがあることに気付かせるようにする。